

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

- 分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験 -

1. 今後の見通し

予測期間: 2002年11月上旬から12月上旬まで

対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業: さんま棒受網漁業

対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 11月上旬は前年を上回るがやや低位の水準で推移し、11月中旬には極めて低位の水準となる。

(2) 漁場: 漁場は11月上旬には落石沖合から襟裳岬沖合にかけての親潮第1分枝沿いに分散して形成され、11月中旬以降は散発的となる。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 来遊量は11月上旬は前年並みの中位の水準で推移する。11月中旬には減少傾向となり、11月下旬は低位の水準で推移し、12月上旬には断続的となる。

(2) 漁場: 漁場は11月上旬以降は南部の海域に偏る傾向となり、12月上旬には散発的な漁場形成となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 11月上旬の来遊量は増加傾向で推移し、11月中旬には増減傾向となるが、下旬には中位の水準で推移する。12月上旬には減少する。

(2) 漁場: 常磐南部から鹿島灘の海域に漁場が出現し、後続群が順次加わり、前年とは異なり比較的長期にわたり犬吠埼周辺に漁場が形成される。

2. 予測の概要

海 域		11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量				
	動向	低位減少	断続的		
	漁 場	落石～襟裳岬 沖合	散発的		
三陸海域	来遊量				
	動向	中位水準	中位減少	低位水準	断続的
	漁 場	南部	南部	南部	散発的
常磐海域	来遊量				
	動向	低位増加	減増的	中位水準	急減傾向
	漁 場	常磐南部 ～鹿島灘	鹿島灘 犬吠埼周辺	鹿島灘 犬吠埼周辺	鹿島灘 犬吠埼周辺

3. 漁況の経過概要

(10月中旬)

10月中旬の漁況経過の特徴は、落石沖から釧路沖にかけて東方沖合から魚群が波状的に来遊して好漁場が形成され、そこから親潮第1分枝沿に南下回遊する魚群を対象とする漁場が襟裳岬南東沖に形成された。後半には親潮前線を乗り越えて三陸沖に達する魚群を対象とする漁場が鮫角沖から黒崎沖にかけて分散的に形成され、17日以降には常磐沿岸にも今漁期初の漁場が形成された。

1) 道東海域

(1) 来遊量: 10月中旬の来遊量は、前年を上回り、平年並みの水準であった。

(2) 漁場: 10月中旬には、東方沖合海域から波状的に魚群が落石南20海里～釧路南30海里に付近に来遊し、表面水温10～13℃付近で、1日平均漁獲量が25～50トンの好漁場が継続して形成された。そこから親潮第1分枝沿の冷水の差込の方向に南下回遊する魚群を対象に襟裳岬南東30～40海里付近の表面水温13℃台に漁場が形成され、前半は比較的好漁であったが、後半は魚群の逸散に伴い次第に低調になった。

(3) 魚体: 魚体組成は、落石～釧路沖の主漁場では大型魚・中型魚・小型魚の割合が2・5・3～3・3・4で大型魚の割合が比較的多い傾向が続いていた。襟裳岬沖では前旬に引き続き大型魚・中型魚・小型魚の割合が2・5・3～2・4・4の群が多く、主漁場に比べて大型魚の割合がやや少ない傾向であった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 10月中旬の来遊量は、前年及び平年を下回る極めて低い水準であった。

(2) 漁場: 10月中旬後半に道東海域の襟裳岬沖の漁場から黒崎沖にかけての南西方向に、親潮前線を乗り越えて南下回遊する魚群を対象に、表面水温15～17℃付近に漁場が分散的に形成された。

(3) 魚体: 魚体組成は大型魚・中型魚・小型魚の割合が前旬同様に2-5-3～2-3-5で、大型魚の割合が比較的少なかった。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 10月中旬の来遊量は、平年を下回り、前年並みの極めて低い水準であった。

(2) 漁場: 10月17～19日に小名浜沖20～30海里の表面水温18℃台、50m深水温15℃台の冷水の差込の先端付近に、今漁期初初めての漁場形成があり、大型船で最高18トン、平均6トン、小型船で0.5～5.5トンの漁獲があった。20日には大型船により塩屋崎沿岸で最高11トン、平均5トンの漁獲があり、また、小型船により大津沿岸で0.1～0.8トンの漁獲があった。

(3) 魚体: 魚体組成は大型魚・中型魚・小型魚の割合が2-5-3～2-4-4であった。